

ジルコニアの臨床応用 Vol.11



歯科臨床の現場において急速に普及してきた感のあるジルコニア。従来型のポンドタイプ(陶材築盛)に加えて、近年モノリシック(一塊単一材料)のフルジルコニアクラウンの進化も目覚ましく、その審美性向上から前歯適用のケースも増えています。しかし有効な選択肢となってきたジルコニアというマテリアルに関しては、その高強度から残存歯に対する影響を懸念される先生方も多いのではないのでしょうか。

そこで今回、ジルコニアをはじめ数々のセラミック補綴治療を手がけられている福岡県ご開業の田中憲一先生のセミナーを開催する事になりました。西日本各地で開催され、今回11回目となります。臨床に用いられる各マテリアルの詳細な特徴と選択基準、ジルコニアの特性と可能性、今だからこそ再考したい接着の理論と実際、形成、治療手技、またインプラント症例迄を含めた盛り沢山の内容で、オールセラミック臨床の最新情報を報告いたします。



② フルジルコニアクラウン

- ◆MBからジルコニアまで、臨床上的特性と優位性
- ◆オールセラミックスの現在と今後の可能性、課題は?
- ◆今だからこそ再考したい、「接着」の理論と実際



Monolithic Full Zirconia Crown & Bridge

新たな選択肢として適用範囲を広げている『フルジルコニア』も解説

日時 2020年 1月 26日 (日)

10:30~13:00

(受付 10:00~10:30)

会場 宜野湾マリン支援センター
まりりんぎのわん 2F会議室(大)

定員 50名 (対象: 歯科医師、医院スタッフ)

費用 2,000円(税込) ※医院スタッフ様は無料



■田中 憲一先生

1997年 岩手医科大学歯学部卒業
2011年 田中歯科医院開業

- 所属・認定医等 -

日本顎咬合学会 指導医
日本口腔インプラント学会 会員
日本臨床歯周病学会 会員
北九州歯学研究会 会員、日本審美歯科協会 会員
Osseointegration Study Club of Japan 会員、JACD 会員
上田塾 会員、歯科臨床追求会白石組 会員

修復治療のマテリアルは、セラミックス、金属、レジン系に大別されます。それぞれ特性を有し、適材適所に用いることが良好な結果に繋がることは歯科臨床での実績から判断できます。そのことを踏まえた上で審美性や耐久性、生体親和性、さらには技工操作などを考慮しマテリアルを選択しますが、与えられた様々な条件(咬合状態等)の中で悩ましい思いをすることも少なくありません。特にセラミックスを使用した修復治療には、患者・術者両方にとって魅力的な要素が多く含まれる反面、強度の点では特に配慮が必要です。私の臨床においては、過去においてPFMクラウンを選択することが圧倒的に多かったのですが、現在ではオールセラミックスクラウンの選択が増えてきています。無論従来から使用されてきたPFMクラウンは長い実績と安定感がありますが、二ケイ酸リチウム(Li₂O₂Si₂)や二酸化ジルコニウム(ZrO₂)を用いた修復物が近年頭角を顕にしてきました。今回は、これらの特性を抽出し一般的に選択基準とされることを確認しながら、症例を提示し私見を述べさせていただきます。皆様の臨床の一助となれば幸いです。

田中 憲一

お申込み・お問い合わせ

別紙申込用紙にご記入頂き、FAX、TEL、またはHPからお申込み下さい。

主催: 株式会社 愛歯 沖縄営業所

TEL 090-8914-1081 FAX 098-832-1081



セミナーPV



でチェック!

~Dr.Yoshida Ver.~

